

2025 年 9 月 3 日

報道関係各位

建築の一大イベント『ひろしま国際建築祭 2025』 トークイベントおよび親子で参加できるワークショップ開催のお知らせ

一般財団法人神原・ツネイシ文化財団（広島県福山市 代表者：代表理事 神原勝成）は、今秋 10 月から幕開けする建築文化の祭典『ひろしま国際建築祭 2025』の開催を記念し、建築界を代表する登壇者を招いた 4 つのトークイベントとオリジナルの椅子づくりなど、親子で参加できるプログラムも含む 3 つのワークショップをお届けします。今回実施するトークイベントでは、国内外で活躍する建築家や専門家を招き、多角的に建築について議論するほか、こども向けのワークショップでは、建築祭のミッションのひとつである“こどもの感性を磨く”ことを目的に建築に直接触れ合う機会を設ける取り組みです。

『ひろしま国際建築祭 2025』 4 つのトークイベント概要

	■トークイベント1	■トークイベント2	■トークイベント3	■トークイベント4
タイトル	「ひろしまから世界へー建築祭オープニング・プレミアトーク」	ひろしまたてものがたりフェスタ2025 連携企画 Vol.1 「瀬戸内海に築かれた文化：戦後建築の軌跡とその現在」	ひろしまたてものがたりフェスタ2025 連携企画 Vol.2 「瀬戸内海に築かれた文化：戦後建築の軌跡とその現在」	「最小単位の建築実践：Archizinesのつくり方・つかい方」
テーマ 登壇者	第1部：ナイン・ヴィジョンズ 伊東豊雄、鈴木久雄 第2部：NEXT ARCHITECTURE Clouds Architecture Office、 石上純也	第1部：「今振り返る広島の中世」 藤本寿徳、前田圭介 第2部：「後山荘とその次へー 藤井厚二に始まる福山たてものがたり」 藤井英博、前田圭介、松隈章、 谷藤史彦	第1部：特別講演「瀬戸内の住まい・ 建築を考える」 村上徹 第2部：特別講演「コミュニティと 建築」 山本理顕	ZINE制作の紹介を軸に、建築を伝える もう一つの実践について語り合う 工藤桃子、森 純平、川勝真一
日時	2025年10月5日（日）13:00～18:00	2025年10月18日（土）13:00～15:40	2025年10月26日（日）13:00～15:40	2025年10月25日（土）16:00～17:00
会場	コワーキングスペース tovio (iti SETOUCHI内) 広島県福山市西町1-1-1	広島県立歴史博物館 講堂 広島県福山市西町2-4-1	ふくやま美術館 ホール 広島県福山市西町2-4-3	ONOMICHI U2内 The RESTAURANT 広島県尾道市西御所町5-11
入場料	5,000円（事前予約制） ※鑑賞バスポート付き	無料（事前予約制）	無料（事前予約制）	1,000円 （事前予約制、ワンドリンク付）

『ひろしま国際建築祭 2025』 3 つのワークショップ概要（親子参加プログラムを含む）

	■ワークショップ1	■ワークショップ2	■ワークショップ3
タイトル	布を張り、ベンチを組み、庭をかたちづくる建築 ワークショップ	椅子づくりやノコギリ、かんな削りを体験できる大 工ワークショップ	庭園で学ぶ、親子の循環ワークショップ
テーマ 講師 内容	「伝統工法でつくられたストックヤードの テキスタイル施工とコンポストベンチ制作」 川島範久建築設計事務所 + テキスタイルデザインチーム ・布や木材といった素材を実際に扱いながら、施 工・組立・採集のプロセスを体験することで、建築 と自然循環をつなぐデザインの可能性を学びます。	「大工まつり 椅子をつくろう」 羽根建築工房 羽根信一 + 大工職人 ・かんなど木を削ったり、のこぎりで木を切ったり して、大工仕事を体験します。また、木の端材から 自分だけのオリジナルの椅子も製作していただきま す。木の魅力や大工仕事の基礎、伝統技術を学び、 手を使ってものを作る楽しさを体験する機会です。	「神勝寺の庭を舞台にしたコンポストづくり体験」 川島範久建築設計事務所 ・自然ゆたかな庭園を歩きながら、自然素材を観察 し、庭園がどのように管理されているかを学びま す。 ・学生たちが制作した「コンポストベンチ」に落 ち葉などを投入し、堆肥化の仕組みを実際に体験し ます。
対象	建築に関心のある大学生	小学生のお子様 ※お子様1名に対し保護者1名の同伴を推奨いたします。	小学生のお子様とその保護者1名
日時	2025年9月22日（月）、23日（祝・火） 09:00～17:00 ※2日連続の参加も可。	2025年10月19日（日） 第1回：11:00～12:00 第2回：13:00～14:00 第3回：15:00～16:00	2025年11月2日（日）、3日（祝・月） 第1回：10:00～12:00 第2回：14:00～16:00
会場	神勝寺 禅と庭のミュージアム（茶屋横、無明院） 広島県福山市沼隈町大字上山南91	神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院本堂） 広島県福山市沼隈町大字上山南91	神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院付近） 広島県福山市沼隈町大字上山南91
参加費	無料（事前予約制）	無料（事前予約制）※保護者は鑑賞バスポート購入必要。	無料（事前予約制）※保護者は鑑賞バスポート購入必要。

■トークイベント1

「ひろしまから世界へ—建築祭オープニング・プレミアトーク」

日 時 | 2025 年 10 月 5 日 (日) 13:00~18:00 (開場 12:30)

会 場 | コワーキングスペース tovio (iti SETOUCHI 内)
広島県福山市西町 1-1-1

主 催 | 一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

入場料 | 5,000 円 (事前予約制)

※鑑賞パスポート付き

※第 1 部、第 2 部すべてを聴講可。途中入退場可

定 員 | 100 名

概 要 | 初回となる『ひろしま国際建築祭 2025』を記念して、出展建築家・作家の方々によるオープニングトークを開催します。それぞれ、「ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ跳躍する 9 人の建築家」展と「NEXT ARCHITECTURE | 「建築」でつなぐ新しい未来」展から 2 名ずつご登壇いただき、今回の展示やご自身のプロジェクトについて、たっぷりとお話をうかがいます。

構 成 |

第 1 部 ナイン・ヴィジョンズ

13:00~14:20 (80 分)

タイトル | 「瀬戸内から始まった日本の現代建築」

登壇者 | 伊東豊雄 (建築家)

内 容 | 「戦後日本建築の父」とも称される丹下健三の出発点が広島にあったことを振り返りながら瀬戸内の地でどのように建築文化が展開してきたのかを考えます。

14:35~15:15 (40 分)

タイトル | 「建築と共鳴する写真：時間と空間を記録する」

登壇者 | 鈴木久雄 (写真家)

内 容 | スペインの建築雑誌『El Croquis (エル・クロッキー)』で数々の作品を撮影してきた写真家・鈴木久雄が、建築を写真に収めるという行為について語ります。今回の建築祭では、氏が手がけた SANAA の建築写真を展示していることから、SANAA 建築の魅力についてもお話しいたきます。

※30 分休憩

第 2 部 NEXT ARCHITECTURE

15:45~16:45 (60 分)

タイトル | 「Transplanetary Projects」

登壇者 | Clouds Architecture Office (建築家)

内 容 | NASA との共同研究で名高い Clouds Architecture Office が、火星の住宅プランを中心に、自身の作品について語ります。日本国内で見られる建築や、今後の展望など、宇宙規模に広がる Clouds Architecture Office の思考を垣間見るチャンスです。

17:00~18:00 (60 分)

タイトル | 「My Works」

登壇者 | 石上純也 (建築家)

内 容 | 「建築」の一般的な概念を越えて作品づくりを行う石上純也が、今回の建築祭に出展しているプロジェクトを中心に、自身の作品について語ります。

申し込み方法 | 下記申込フォームより必要事項をご記入の上、お申し込みください。

<https://hiroshima-archi20251005.peatix.com>



■トークイベント 2

ひろしまたてものがたりフェスタ 2025 連携企画 Vol.1

記念シンポジウム「瀬戸内海に築かれた文化：戦後建築の軌跡とその現在」

日 時 | 2025 年 10 月 18 日（土） 13:00～15:40（開場 12:30）

会 場 | 広島県立歴史博物館 講堂
広島県福山市西町 2-4-1

主 催 | 広島県、一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

入場料 | 無料（事前予約制）

定 員 | 280 名

概 要 | 2025 年 10 月 4 日（土）より開催する『ひろしま国際建築祭 2025』に伴い、より多くの方に建築に関心を寄せていただくため、また広島ならではの視点で戦後建築を見直すため、「ひろしまたてものがたりフェスタ 2025」との連携企画として、記念講演会を開催します。

「戦後日本における建築は、瀬戸内から始まった」と言えるほど、丹下健三をはじめ、世界的に高く評価される日本の建築家が、瀬戸内での活動を行ってきました。本企画は 10 月 18 日、10 月 26 日の 2 回に渡り記念講演会を開催することで、建築家と広島のつながりを歴史的観点から紐解きつつ、今後の瀬戸内の文化がどのように築かれていくのか、見直す場となることを目指します。

構 成 |

第 1 部

13:00～14:10（70 分）

タイトル | トークセッション「今振り返る広島の半世紀」

登壇者 | 藤本寿徳（建築家）、前田圭介（建築家）

内 容 | 現在、広島県内で活躍する建築家に、彼らの建築の根底をなす備後地域をはじめとする瀬戸内の「原風景」について、講演いただきます。瀬戸内の歴史と現在の建築家が織りなす対話をきっかけに、瀬戸内の歴史と文化を見直します。

第 2 部

14:30～15:40（70 分）

タイトル | トークセッション「後山山荘とその次へー藤井厚二に始まる福山たてものがたり」

登壇者 | 藤井英博（後山山荘オーナー）、前田圭介（建築家）、松隈章（竹中工務店、聴竹居倶楽部代表理事）、谷藤史彦（下瀬美術館 元副館長）

内 容 | 福山出身の建築家・藤井厚二による藹然荘（あいぜんそう）が、藤井厚二に強い共感をもつ人々の手によって、後山山荘として生まれ変わりました。昭和初期に建てられた藹然荘の背景を探りつつ、鞆の浦をはじめとする瀬戸内の歴史や文化に触れながら、これから福山の“たてももの”がつむいでいく“ものがたり”について、後山山荘の中核を担う 4 名のお話をうかがいます。

申し込み方法 | 下記申込フォームより必要事項をご記入の上、お申し込みください。

<https://hiroshima-archi20251018.peatix.com>

■トークイベント 3

ひろしまたてものがたりフェスタ 2025 連携企画 Vol.2

記念シンポジウム「瀬戸内海に築かれた文化：戦後建築の軌跡とその現在」

日 時 | 2025 年 10 月 26 日（日） 13:00～15:40（開場 12:30）

会 場 | ふくやま美術館 ホール
広島県福山市西町 2-4-3

主 催 | 広島県、一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

入場料 | 無料（事前予約制）

定 員 | 100 名

概要 | 2025 年 10 月 4 日（土）より開催する『ひろしま国際建築祭 2025』に伴い、より多くの方に建築に関心を寄せていただくため、また広島ならではの視点で戦後建築を見直すため、「ひろしまたてものがたりフェスタ 2025」との連携企画として、記念講演会を開催します。

「戦後日本における建築は、瀬戸内から始まった」と言えるほど、丹下健三をはじめ、世界的に高く評価される日本の建築家が、瀬戸内での活動を行ってきました。本企画は 10 月 18 日、10 月 26 日の 2 回に渡り記念講演会を開催することで、建築家と広島をつなぐを歴史的観点から紐解きつつ、今後の瀬戸内の文化がどのように築かれていくのか、見直す場となることを目指します。

構成 |

第 1 部

13:00～14:10（70 分）

タイトル | 特別講演「瀬戸内の住まい・建築を考える」

登壇者 | 村上徹（建築家）

内容 | 広島を拠点に活躍する建築家・村上徹に、瀬戸内の建築とのつながりを探ります。瀬戸内の建築、ひいては瀬戸内の文化がどのように展開してきたのか、「住宅」を切り口に、その魅力と課題を問い直します。

第 2 部

14:30～15:40（70 分）

タイトル | 特別講演「コミュニティと建築」

登壇者 | 山本理顕（建築家）

内容 | 2024 年、建築界のノーベル賞ともいわれるプリツカー建築賞を受賞した建築家・山本理顕が、ガザやベネズエラでのプロジェクトをはじめ、世界各地で培った経験をもとに、建築とコミュニティのこれからを語ります。社会の分断や地域の衰退、環境危機が深まるいま、「人々がどのように空間を共有し、新しい共同体を築いていけるのか」という問いは、世界共通のテーマです。その視点を瀬戸内や広島暮らしに重ねながら、建築が社会に果たす役割を、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

申し込み方法 | 下記申込フォームより必要事項をご記入の上、お申し込みください。

<https://hiroshima-archi20251026.peatix.com>



■トークイベント 4

「最小単位の建築実践：Archizines のつくり方・つかい方」

日時 | 2025 年 10 月 25 日（土） 16:00～17:00（開場 15:45）

会場 | ONOMICHI U2 内 The RESTAURANT
広島県尾道市西御所町 5-11

主催 | 一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

入場料 | 1,000 円（事前予約制、ワンドリンク付）

定員 | 30 名

登壇者 | 工藤桃子（建築家）、森純平（建築家）、川勝真一（建築キュレーター）

概要 | ひろしま国際建築祭の展示「[ZINE] から見る日本建築の Now and Then」に併せて、出展作品の制作者をお招きしたトークイベント「最小単位の建築実践：Archizines のつくり方・つかい方」開催します。

近年、建築家自身が編集・出版を手がける ZINE や書籍が改めて注目を集めています。既存の出版の枠組みでは拾いきれない実験的なテーマを取り上げたり、造本の細部にまでこだわったりと、それらは表現としての建築の“最小単位”とも言えるメディアです。また、長い時間をかけてつくられる建築とは対照的に、ZINE はスピーディかつ即興的に制作されることで、その時々建築家の思考を軽やかに刻み込む役割も果たしています。

今回のトークでは、建築そのものだけでは伝えきれない、人や素材、建築としてのあり方、背景のまなざしを ZINE というかたちで表現している二人の若手建築家を迎え、それぞれの ZINE 制作についての紹介を軸に、建築を伝えるもう一つの実践について語り合います。



申し込み方法 下記申込フォームより必要事項をご記入の上、お申し込みください。

<https://hiroshima-archi20251025.peatix.com>



■ワークショップ1

布を張り、ベンチを組み、庭をかたちづくる建築ワークショップ

—伝統工法でつくられたストックヤードのテキスタイル施工とコンポストベンチの制作—

- 日 時 | 2025 年 9 月 22 日 (月)、23 日 (祝・火) 09:00-17:00
- 会 場 | 神勝寺 禅と庭のミュージアム (茶屋横、無明院)
広島県福山市沼隈町大字上山南 91
※参加受付：神勝寺入口
- 主 催 | 一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団
- 参加費 | 無料 (事前予約制)
- 定 員 | 各回最大 10 名 ※2 日間連続の参加も可。
- 対 象 | 建築に関心のある大学生
- 講 師 | 川島範久建築設計事務所 + テキスタイルデザインチーム
- 概 要 | 布や木材といった素材を実際に扱いながら、施工・組立・採集のプロセスを体験することで、建築と自然循環をつなぐデザインの可能性を学びます。
- 備 考 | 持ち物：軍手、カッター、メジャー、筆記用具、水筒、動きやすく汚れても良い服装・靴
※参加者には下記をプレゼント！
- ・鑑賞パスポート (3 日間有効、全会場の観覧可能)
 - ・10月18日 (土)、26日 (日) 開催の特別講演会へのご招待
 - ・ONOMICHI U2 で使用可能な商品券 (1,000 円相当)

申し込み方法 下記申込フォームより必要事項をご記入の上、お申し込みください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSebOoP0pZo1ltqmg_eSAHD0gtXUXmUK3ewkdZ381bBc8O6yxA/closedform



■ワークショップ2

椅子づくりやノコギリ、かなな削りを体験できる大工ワークショップ

- 日 時 | 2025 年 10 月 19 日 (日) 全 3 回実施 各回 60 分
- 会 場 | 神勝寺 禅と庭のミュージアム (無明院本堂)
広島県福山市沼隈町大字上山南 91
※集合場所：無明院正門前
- 主 催 | 一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団
- 協 力 | 有限会社羽根建築工房、手刻み同好会
- 参加費 | 無料 (事前予約制) ※保護者が建築祭の鑑賞パスポートを購入していることを前提。
- 定 員 | 最大 10 名/回
- 対 象 | 小学生 ※お子様 1 名につき保護者 1 名の同伴を推奨いたします。

概 要 | 『ひろしま国際建築祭 2025』開催にあたり、羽根建築工房の協力のもと、羽根建築工房の羽根信一氏や大工職人とともに、かなで木を削ったり、のこぎりで木を切ったりして、大工仕事を体験します。また、木の端材の香りやてざわりを感じながら、自分だけのオリジナルの椅子も製作していただきます。木の魅力や大工仕事の基礎、伝統技術に親しみ、手を使ってものを作る楽しさを体験する機会です。椅子はお持ち帰りいただけます。

構 成 | 第1回：11:00～12:00（受付：10:30 より）
第2回：13:00～14:00（受付：13:30 より）
第3回：15:00～16:00（受付：14:30 より）

講 師 | 羽根建築工房 羽根信一、大工職人
内 容 | 羽根さんからの説明 10 分
かな削り体験、のこぎり体験 20 分
椅子作り 30 分
※当日は作業がしやすい服装でおでかけください。

募集期間 | 2025 年 9 月 3 日（水）～9 月 30 日（火）
※先着順

申し込み方法 | 下記申込フォームより必要事項をご記入の上、お申し込みください。

<https://hiroshima-archi20251019.peatix.com>



■ワークショップ3

庭園でまなぶ、親子の循環ワークショップ

—神勝寺の庭を舞台にしたコンポストづくり体験—

日 時 | 2025 年 11 月 2 日（日）、3 日（祝・月） 全 2 回/日 各回 120 分

会 場 | 神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院近く）
広島県福山市沼隈町大字上山南 91
※参加受付：神勝寺入口

主 催 | 一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

参加費 | 無料（事前予約制）※保護者が建築祭の鑑賞パスポートを購入していることを前提。

定 員 | 各回 10 組

対 象 | 小学生のお子様とその保護者 1 名

講 師 | 川島範久建築設計事務所

概 要 | 自然ゆたかな庭園を歩きながら、落ち葉や植物などの自然素材を観察し、常に美しい庭園がどのように管理されているかを学びます。学生たちが制作した「コンポストベンチ」に素材を投入し、堆肥化の仕組みを実際に体験します。
※各回最後に押し花を制作し、お持ち帰りいただけます。

構 成 | 第1回：10:00～12:00（受付：09:30 より）
第2回：14:00～16:00（受付：13:30 より）

備 考 | 服装：動きやすく、汚れたり濡れたりしても大丈夫な服と靴でおでかけください。
持ち物：タオル、軍手、水筒（必要に応じて着替え）をお持ちください。

募集期間 | 2025 年 9 月 3 日（水）～9 月 30 日（火）
※先着順

申し込み方法 下記申込フォームより必要事項をご記入の上、お申し込みください。

<https://hiroshima-archi2025110203110203.peatix.com>



■『ひろしま国際建築祭』とは

一般財団法人神原・ツネイシ文化財団が「建築」で未来の街をつくり、こどもの感性を磨き、地域を活性化させ、地域の“名建築”を未来に残すことをミッションとして掲げ、3年に1度開催する建築文化を発信する祭典で、現在日本各地で開催されている芸術祭の“建築”版のような文化イベントです。

初回の2025年は、広島県の福山市・尾道市にある7つの会場を中心に8つの建築にまつわる展示を2025年10月4日（土）-2025年11月30日（日）（58日間）行います。世界的に活躍する著名建築家はもちろん、未来を担う建築家・作家まで総勢23組が出展します。

会期中は、建築家による講演会や、展覧会のガイドツアー、こども向けワークショップなど、多岐にわたるプログラムも開催します。

詳細をご覧ください。

◎ホームページ

<https://hiroshima-architecture-exhibition.jp/>

◎SNS



Facebook



Instagram



X

■一般財団法人神原・ツネイシ文化財団（常石グループ）について

『ひろしま国際建築祭2025』を主催する＜神原・ツネイシ文化財団＞は、常石グループ（広島県福山市）がさらなる地域の活性化と豊かな市民生活の実現に向け、建築文化を発信することを目的のひとつとして設立した財団です。常石グループは、海運、造船、物流、商社・エネルギー、環境、ライフ&リゾートの各事業分野で地域社会と連携しながら新たな価値創造を推進しています。また、2025年に新たに設立したグループ社会貢献推進部を通じて、地域貢献活動へのサポートを拡大しています。

神原・ツネイシ文化財団：[ABOUT | 一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団](#)

常石グループ：<https://www.tsuneishi-g.jp/company/>

■お問い合わせ先

◎一般の方向けお問い合わせ先：

以下ホームページのお問い合わせフォームよりお問い合わせください。

『ひろしま国際建築祭2025』ホームページ：<https://hiroshima-architecture-exhibition.jp/>

◎報道関係者お問い合わせ先：

『ひろしま国際建築祭2025』

実行委員会事務局（一般財団法人神原・ツネイシ文化財団 内）

メール：pr@kambara-tsuneishi-foundation.jp（担当：守田美奈子）

APPENDIX

■トークイベント1 登壇者

◎伊東豊雄（建築家）



©中村 絵

1941年生まれ。65年東京大学工学部建築学科卒業。主な作品に「せんだいメディアテーク」、「多摩美術大学図書館（八王子キャンパス）」、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」、「台中国家歌劇院」（台湾）など。近作に「水戸市民会館」、「茨木市文化・子育て複合施設 おにクル」「EXPO ホール 2025」などがある。現在、「国家児童未来館」（台湾）などが進行中。

日本建築学会賞（作品賞、大賞）、ヴェネチア・ビエンナーレ金獅子賞、王立英国建築家協会（RIBA）ロイヤルゴールドメダル、高松宮殿下記念世界文化賞、プリツカー建築賞、UIA ゴールドメダルなど受賞。2011年に私塾「伊東建築塾」を設立。これからのまちや建築を考える場として様々な活動を行っている。また、自身のミュージアムが建つ愛媛県今治市大三島においては、塾生有志や地域の人々とともに継続的なまちづくりの活動に取り組んでいる。

◎鈴木久雄（写真家）



1984-91年 建築家磯崎新氏設計のバラウ・サン・ジョルディ構築記録をする。

1986年- 建築雑誌 El Croquis のメインカメラマンを務める。

1988年 鹿島出版会スペースデザイン SD 特集号 「ガウディとその師弟たち」

1991-93年 美術出版社「みづる」

ロマネスク教会建築をまとめた「ピレネー地方の建築」6回連載

1996年 ベネチアビエンナーレ 建築写真部門 招待作家

2012年 新建築社 a+u モノグラフィー 「La Luz Magica」

2012年- RCR Bunka 財団主催のワークショップ Lab-A 写真部門ディレクター

2014年 新建築社 a+u モノグラフィー 「Super Model」建築模型特集

2017年 日経アーキテクチュア 単行本 「建築のチカラ」

2022年 40年間にわたる写真記録活動に対しスペイン国カタルーニャ州政府より「サン・ジョルディ十字勲章」(Creu Sant Jordi)を授与される。

◎Clouds Architecture Office（建築家）



©GION

Clouds Architecture Office は建築設計・アート・リサーチ分野の幅広い知見を統合する創造性に焦点をあてた活動を目的として、曾野正之（1970年生まれ）とオスタッパ・ルダケヴィッチ（1973年生まれ）によりニューヨークで2010年設立。2015年曾野祐子参加。理念と実体験の交点を探る環境の知覚体験を根幹に置く設計手法により多様なプロジェクトを提案し、これまでに住宅・公共施設からパブリックアートや宇宙建築に至る幅広い設計に携わる。Clouds AO（クラウド・アオ）の設計過程における特徴は、必要なプログラムに対する徹底したリサーチ及び多面的なデザイン・スタディを通じ最良の解法を導くプロセス重視のアプローチにある。2015年 NASA 火星基地設計コンペ優勝、同コンセプトの NASA との共同設計を開始。2018年 ANA と JAXA による宇宙開発実証実験施設「AVATAR X LAB」を発表。2022年には福岡の複合施設「010 BUILDING」を手がけた。現在ウクライナでの3Dプリントによる復興支援プロジェクトを Serendix、国連工業開発機関と共に進行中。

◎石上純也（建築家）



©CHIKASHI SUZUKI

1974 年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了後、妹島和世建築設計事務所を経て、2004 年石上純也建築設計事務所を設立。

主な作品に、神奈川工科大学 KAIT 工房・KAIT 広場、Park Groot Vijversburg ビジターセンター、水庭、2019 年サーペントインパヴィリオン、House & Restaurant、水の美術館など。

2009 年日本建築学会賞（作品）、2010 年第 12 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞、毎日デザイン賞、2019 年芸術選奨文部科学大臣新人賞（美術部門）、OBEL AWARD、2024 年フレデリック・キースラー建築芸術賞、2024 年日本建築学会賞(作品)など受賞多数。

■トークイベント 2 登壇者

◎藤本寿徳（建築家）



1967 年山口県生まれ。1991 年早稲田大学理工学部建築学科卒業。1991 年より安藤忠雄建築研究所、1994 年より NASCA への勤務を経て、1998 年に藤本寿徳建築設計事務所を設立。瀬戸内の風土に惹かれ、独立に際し広島県福山市を拠点とする。数多くの住宅を手がけ、主な受賞歴に、日事連建築賞優秀賞、ひろしま建築文化賞優秀賞、JIA 中国建築大賞優秀賞、日本建築学会作品選集、などがある。現在、安田女子大学講師。

◎前田圭介（建築家）



©藤塚光政

1974 年、広島県福山市生まれ。2003 年 UID 設立。

故郷「広島県福山市」を拠点に国内外でインターローカルな設計活動を行い、建築・庭・街といった内外の境界を一体的に捉えた空間を探索している。

福山市内では『ホロコースト記念館』にて Dedalo Minosse 2007 /2008 国際建築賞 Under40 グランプリ(イタリア)、こどもえんつくし乳児棟『Peanuts』にて 2012 年こども環境学会賞 デザイン賞、2013 年日事連建築賞 国土交通大臣賞。『福山本通・船町商店街アーケード 改修プロジェクト-とおり町 Street garden-』にてグッドデザイン賞 2017 グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）。

『santo』にて 2024 年日本建築学会作品選奨を受賞。その他、第 11 回 ARCASIA 建築賞 ゴールドメダル(Asia)、第 24 回 JIA 新人賞、Design Vanguard 2014 選出（米国）、AR House 2016 Winner（英国）など受賞。

◎藤井英博（後山山荘オーナー）



1951 年広島県福山市生まれ。幼少期、海水浴のため毎年鞆の浦を訪れていた。大学以降は東京に住み、証券会社に勤務。2009 年、リタイアを目前にして心境の変化が生じ、故郷とのつながりを求めて後山山荘のある敷地を購入。敷地から見える鞆の浦の景色が購入の決め手となった。55 年間の東京での生活を終え、現在は広島市に拠点を移している。

◎松隈章（竹中工務店、聴竹居倶楽部代表理事）



1957 年 兵庫県生まれ。株式会社 竹中工務店 設計本部設計企画部所属、経営企画室 サステナビリティ推進部兼務。一般社団法人 聴竹居倶楽部 代表理事。公益財団法人 竹中大工道具館 評議員。北海道大学建築工学科卒業後、竹中工務店入社。建築設計業務の傍ら近代建築の保存活用や数多くの建築展、美術展に携わる。主な著書『聴竹居 藤井厚二の木造モダニズム建築』平凡社コロナブックス、『聴竹居 発見と再生の 22 年』ぴあ関西、『聴竹居 実測図集』彰国社。聴竹居の一連の活動に対して 2018 年度日本建築学会賞・業績賞及び日本イコモス賞を受賞。

◎谷藤史彦（下瀬美術館 元副館長）



1955 年生まれ。早稲田大学第二文学部卒業。京都大学大学院にて博士（人間・環境学）を取得。ふくやま美術館副館長、下瀬美術館副館長歴任。主な展覧会企画に、「アフロ ブッリ フォンタナ」、「武田五一・田辺淳吉・藤井厚二」、「フランク・ロイド・ライトと武田五一」、「マッキアイオーリ」、「キネティック・アート」、「ピカソ展」などがある。主な著書に、『ルチオ・フォンタナとイタリア二十世紀美術』（中央公論美術出版、2016 年）、『祭りばやしのなかで——評伝 高橋秀』（2015 年）、『武田五一的な装飾の極意』（2017 年）、『藤井厚二の和風モダン』（2019 年、いずれも水声社）などがある。

■トークイベント 3 登壇者

◎村上徹（建築家）



1949 年愛媛県今治市生まれ。1972 年広島工業大学工学部建築学科卒業。1972～75 年に内井昭蔵建徳設計事務所勤務で東京に居住。1976 年より村上徹建築設計事務所を広島市内に開設。以後、広島を拠点として、住宅、教育施設、庁舎などの建築設計活動を主に瀬戸内圏内で行う。また設計の傍ら、近畿大学工部、広島大学、広島工業大学にて非常勤講師を歴任。主な受賞としては、1990 年「坂町のアトリエ」で新日本建築家協会新人賞、1994 年「阿品の家をはじめとする一連の住宅」で日本建築学会賞（作品）、1997 年「庵治町役場の設計」で芸術選奨文部大臣新人賞（美術）などがある。1998 年より広島工業大学環境学部教授、2019 年より同大学名誉教授。

◎山本理顕（建築家）



1945 年、北京生まれ。建築家・山本理顕設計工場。

日本大学理工学部建築学科卒業、東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修了、東京大学生産技術研究所原広司研究室研究生。

2007-2011 年横浜国立大学大学院教授、2018-2022 年名古屋造形大学学長、2022-2024 年東京藝術大学客員教授、2024 年より神奈川大学客員教授、横浜国立大学名誉教授・名誉博士。

主な作品に GAZEBO、埼玉県立大学、公立はこだて未来大学、横須賀美術館、The CIRCLE チューリッヒ国際空港、名古屋造形大学など。桃園、天津、北京、ソウルなどでも複合施設、公共建築、集合住宅などを手掛ける。

主な著書に『新編 住居論』（平凡社）、『地域社会圏主義』（TWO VIRGINS）、『権力の空間/空間の権力』（講談社）、『都市美』（河出書房新社）、『山川さんの山川山荘』（TWO VIRGINS）、山本理顕 コミュニティーと建築』（平凡社）など。2001 年「第 57 回日本芸術院賞」、2024 年度プリツカー賞、文化庁長官表彰（国際芸術部門）受賞。

©Tom Welsh for The Hyatt Foundation Pritzker Architecture Prize

■トークイベント 4 登壇者

◎工藤桃子（一級建築士 / MMA Inc.代表取締役）



東京生まれ。幼少期をスイスで過ごす。多摩美術大学環境デザイン学科卒、組織設計勤務のち工学院大学藤森照信研究室修士課程修了。2016年にMMA Inc.を設立。建築設計のほか、インテリアデザイン、展覧会の会場構成も手がけている。2020～22年多摩美術大学非常勤講師。

出展作品

『MMA fragments』

建築家の工藤桃子が率いるMMAが、素材に対する独自のアプローチを「本」というメディアを通してさまざまな角度から読み解いていくジャーナル。MMAの目指す、人々の感情とフィジカルな体験に訴える、言葉では伝えきれない、無意識の美しさと普遍的な心地よさを想起させる空間づくりに触れられる一冊。MMAの実践を紹介しながら、より多くの人々にとって現代の建築について考えるきっかけとなることが目指されている。

◎森純平（interrobang 代表、建築家）



1985年生まれ。東京藝術大学建築科大学院修了。建築から時間を考え続け、舞台、展示、まちづくり等、状況を生み出す現場に身を置きつづける。2013年より千葉・松戸「PARADISE AIR」を設立。今まで500組以上のアーティストが街に滞在している。主な活動におっとり舎（2007～11）、MADLABO（2011～21）、遠野オフキャンパス（2015～）、ラーニングをテーマとした「八戸市美術館設計（西澤徹夫、浅子佳英と共に）」、たいけん美じゅつ場VIVA 基本設計（2019～）、有楽町アートアーバニズムYAU（2021-）、東京藝術大学芸術未来研究場特任准教授（2024～）。

出展作品

『新しい美術館ができるまで 八戸市美術館に関わった8人の場合』

八戸市美術館（2021年竣工）ができるまでのプロセスを、共同設計者である森純平氏が中心になってまとめた一冊。「つくること」だけでなく、その後の「つかっていくこと」も踏まえた美術館の姿、あるいはプロジェクトとしての建築が見据えられている。インタビューは、美術館の館長や学芸員、八戸市の職員、まちづくりのキーマン、そして設計事務所のスタッフとしてプロセスに関わった若き建築家たち。

モデレーター：

◎川勝真一（けんちくセンターCoAK）



1983年兵庫県生まれ。建築リサーチャー、キュレーター、建築センターCoAKディレクター。2008年京都工芸繊維大学大学院建築設計学専攻修了。2008～23年、RAD（Research for Architectural Domain）。2024年、建築センターCoAK（Center for Co-Architecture Kyoto）を設立。建築展覧会、市民参加型ワークショップ、都市やまちづくりのためのリサーチやキュレーション実践を通じ、建築と社会の関わり方を探っている。

■ワークショップ 1&3 講師

◎川島範久建築設計事務所（建築家）



1982 年、神奈川県生まれ。2005 年東京大学工学部建築学科卒業。2007 年東京大学大学院修士課程修了。2007～2014 年日建設計。2012 年 UC パークレー客員研究員。2014～2020 年東京工業大学助教。2016 年東京大学大学院博士課程修了、博士（工学）取得。2017 年川島範久建築設計事務所設立。現在、明治大学准教授、川島範久建築設計事務所代表。「自然とつながる建築」をめざして、デザインの実践と研究に取り組んでいる。

2014 年「NBF 大崎ビル（旧ソニーシティ大崎）」にて日本建築学会賞（作品）、2024 年「GOOD CYCLE BUILDING 001」にて日本建築学会作品選奨を受賞。主著に『環境シミュレーション建築デザイン実践ガイドブック 自然とつながる建築をめざして』（彰国社、2022 年）。

■ワークショップ 2 講師

◎羽根信一（羽根建築工房・手刻み同好会 代表）



有限会社羽根建築工房は大阪市に拠点を置き、「人の手と心で造りこむ、温かく美しい木の家」を理念に活動する工務店です。代表の羽根信一は、18 歳で大工として弟子入りして以来、数多くの住宅や建築家との協働を重ねてきました。

『ひろしま国際建築祭 2025』参加建築家の堀部安嗣氏の関西での住宅設計などに携わり、木組み手刻みの技術を活かした作品を数多く手がけています。2018 年には「手刻み同好会」を立ち上げ、大工の伝統技術を次世代へ継承する活動にも取り組んでいます。